

岐阜市を過ごしやすく優しい街に

市政報告

2020.
2月

REPORT

1

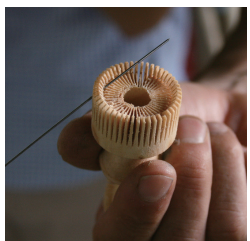
岐阜市の伝統工芸品「岐阜和傘」 後継者育成プロジェクトが始動しました

岐阜は和傘の一大産地ですが、**後継者不足**が課題となっています。12月の議会では岐阜和傘の振興に関する質問もありました。岐阜和傘の技術・文化継承のための取り組みについて紹介します。



岐阜和傘の現状

「**岐阜和傘**」は加納地区を中心にした職人の手作業によって、いくつもの工程を経て作られています。藪田地区にも傘の骨を製作する職人さんがいます。しかし、**後継者不足**により、特に和傘の基盤となる「**傘骨**」と「**ロクロ**」の製作技術が途絶えようとしています。



▲和傘の基盤となる「ロクロ」



桔梗和傘と桜和傘
(製作今日和)



日本初!
岐阜和傘専門店
「和傘CASA」

和傘づくりに携わる若者も増えています。

伝統をいかした現代的なデザインや日本初の和傘専門店「和傘CASA」には、全国から「本物を持ちたい」という方が来店しています!

「岐阜和傘協会」が立ち上がりました

岐阜和傘問屋、職人がメンバーになり、活動してきた「岐阜市和傘振興会」は「岐阜和傘協会」に改名し、一般社団法人化しました。そして、同会が後継者育成プロジェクトを進めていきます。



クラウドファンディング型ふるさと納税の取り組みを進めていきます

岐阜市は民間企業が運営する「ふるさと納税サイト」への加入準備を進めています。「岐阜和傘」のプロジェクトもこれらを有効活用し、課題解決に取り組んでいきます。

クラウドファンディング型ふるさと納税とは

「クラウドファンディング」はプロジェクトに共感する不特定多数の人から寄付によって協力する仕組みのこと。「ふるさと納税」と組み合わせ、ふるさと納税の使いみちを「地域の活動」に当てます。

REPORT

2

鏡島弘法にて「かがしマルシェ」が開催 若者の力で地域を盛り上げます

令和元年11月16日、「文化と食に触れる鏡島弘法の新しい縁日」をコンセプトに、鏡島地区が湊として栄えた歴史を背景にしたグルメ、イベントに触れるマルシェが開催されました。鏡島、市橋、河渡、本荘地区の飲食店が出店し、多くの人で賑わいました。



はじまりは「つなぐ人カレッジ～2017～」から

一般財団法人 岐阜市にぎわいまち公社が平成29年に開催した「ぎふまちづくりコーディネーター養成講座 つなぐ人カレッジ～2017～」の実践地域となった鏡島地区。この時、まちづくり計画の中に、「マルシェ」がありました。



▲つなぐ人カレッジ～2017～の活動

若手経営者で実行委員会が立ち上がり 「かがしマルシェ」を開催

鏡島の歴史と文化をベースに、新しい賑わいの場を造りたい!と考えている有志が集まり、実行委員会が立ち上がりマルシェの企画・運営がされました。



地域のみなさんの協力により、当日は5000人が来場!

当日は飲食店や雑貨店など約20店が出店。また、謎解きゲームなどのイベントも行われました。鏡島弘法(乙津寺)にある国の重要文化財や堂本印象画伯作品の襖絵「超ゆる空」が特別公開されるなど、貴重な体験もでき小さな子どもから高齢者まで、みんなが楽しめるマルシェとなりました。

「かがしマルシェ」当日の様子をご紹介します!



毎月21日の鏡島弘法の縁日に加えて、地域の新しい賑わいの場になることが期待できます。